

カウルレス化に際し、フロントフォークにCNCアルミ切削のクラシフィッククリスタルLEDブレーキカバーに換装。一体型マスタースタータンク（CNCアルミニウムフルードリザーバー）はオプション設定となっている。



「パニガール」を脱ぎ去り、221psを我が物に!



加圧式NPXフォークはスプリングやダンパー類をリセッティング。ラジエーターとオイルクーラーはチタニウムプロテクションスクリーンでガードする。



リアショックはV4R標準装備のオーリンズTX36を、ソフトなレートのスプリングに交換し、油圧式リモートプリロードアジャスターも装備。カーボンホイールはオプションのBSTラビッドテック。このSF-V4RCに驚くほど良く似合う。

「パニガールV4」をベースとする「ストリートファイターV4」が発表されたとき、SBKホモロゲーションのV4Rベースのストリートファイター（以下SF）が登場したら……と夢想したライダーは少なくないだろう。その夢をSF日本導入から時を置かず、実現したのがモトコルセだ。

エクステリアは基本的にドゥカティの純正パーツを使用した。ホルトオン装着できないパーツや、電装品やセンサー位置がSFと異なる部分も多々あったという。アップライアントなボンションの変化や、バイクのカテコリに合わせた乗り味を求め、前後サスペンションのセットアップにも拘った。その完成度の高さは、本誌559号（2020年11月号）でも詳細にお伝えしている。

そのSF-V4Rを、カーボン化したコンパクトマシンが、この「ストリートファイターV4RC」。迫力あるルックスと、いつもの軽量化と超絶馬力が生み出す走り、もはや想像の域をはるかに超える。

そして気になるプライスは、パニガールV4Rの車体価格14万3600円（228万4205円）と製作費用（220万円）の合計で718万8205円となる。コンパクト販売価格は598万円（撮影車はBSTホイール等のオプションを加え674万1585円）。リースナブル、という表現は適切ではないかもしれないが、現在考えうる最強ネイキッドが、このプライスで手に入るのには紛れもなく朗報だ。

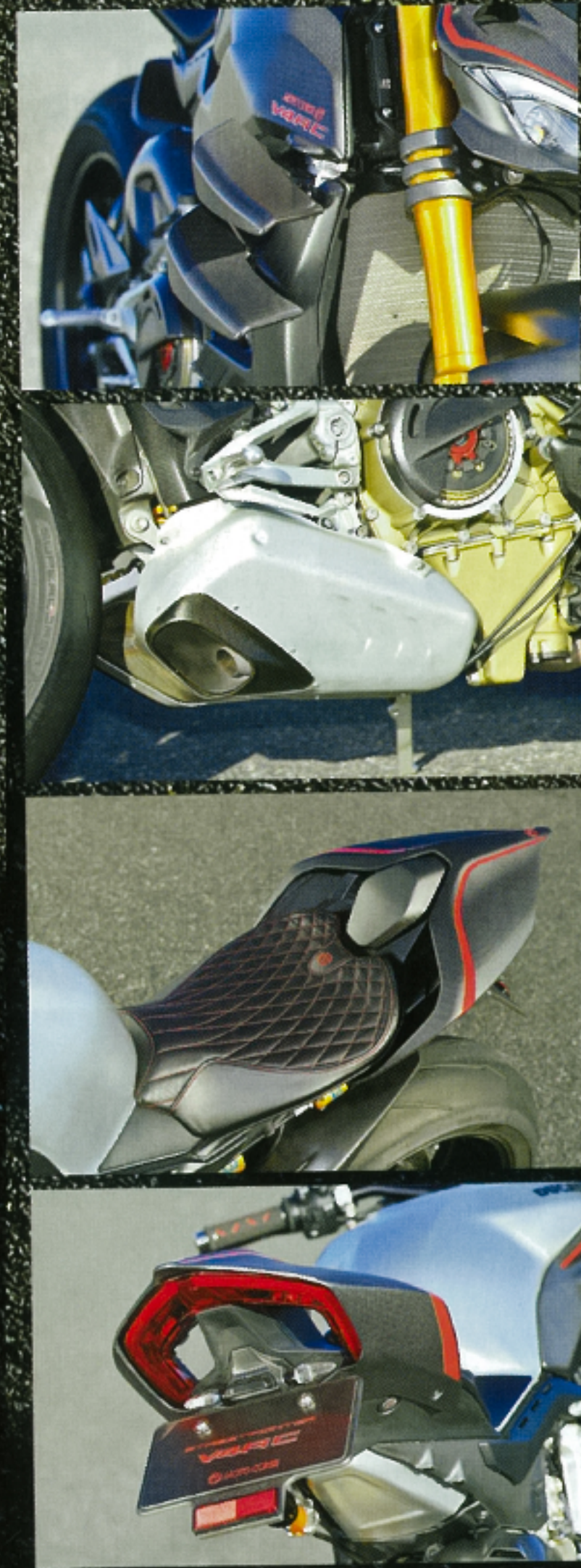


STREETFIGHTER V4RC

Build by MOTO CORSE

一見すると多数のカーボンパーツを纏ったストリートファイター。しかしよく見ればガソリンタンクは武骨なアルミ地で、フォークも異なる……そう、ベースはSBKホモロゲーションマシンのパニガールV4R! カウルを脱ぎ捨てカーボンで軽量化した最強ネイキッドが降臨!!

PHOTO/S.MAYUMI TEXT/K.ITOH
取材協力/モトコルセ TEL046-220-1711 <http://www.motocorse.jp/>



1: SFならではのパイレンウイングはもちろんカーボン。サイドパネルやラジエーターカバーもカーボン化した
2: サイレンサーはノーマル。カーボン製のエンドカッターで個性を主張
3: ダイヤキルトのステッチが映えるスペシャルシートを装備。カーボンのテールカウルにはV4Rと同デザインのグラフィックをドゥカティレッドで入れる。シートパッドもカーボン化
4: テールをシャープに演出するカーボンコンパクトライセンスプレート



1: ピキニカウルのステー類は独自に製作し、完璧にフェイスコンバージョン。ライトの上下フェアリングからインストゥルメントカバーも、すべてドライカーボン。2~3: SF用トップブリッジに換装し、CNC切削のライザーとユニバーサルマウントでテーパーハンドルバーを保持。ステアリングダンパーもSFの標準位置に移設した。